

第1回低炭素都市なごや戦略実行計画の改定に係る懇談会での主な意見

日時：平成28年12月26日(月) 午後2時00分～

場所：市役所東庁舎1階 第12会議室

【構成員からの主な意見】

- データをきちんと把握し、基準年からの比較ができるよううまく整理すること。
- 昼間人口の増加など大都市型の特徴も考える必要がある。
- エネルギー供給構造に対してのこれからの工夫が必要である。
- 数値目標を見る指標と、総合的な全体目標を見る指標を分けた方が良い。
- 事業が進んでもCO₂が減っていないということもあり得る。影響関係は複雑であると思うが、ある程度の指標を作って、目標に対して今どういう進捗かが見える指標があると良い。
- コベネフィット（温暖化対策をすることで、産業の競争力が増してイノベーションが進むとか、暮らしやすさが増すといった副次的効果）を組み合わせていかないと、温暖化対策はなかなか進まない。コベネフィットを活かし、環境局が旗振り役となり、各局と連携して進める実行計画になるといい。
- 事業所の現場は法令や制度を全く知らない。この実行計画をどう市民に知らしめるか、ということを検討してもらいたい。
- 市民目線で言うと、こういう計画は面白くないし、やる気にならないという感覚。自分の行動したことでCO₂が減るという目標を示すなど見せ方の工夫が必要。
- 実行計画なので、実行者に実感してもらうことが重要。CO₂を減らすというストーリーは維持しながら、いかにフィールドに実践してもらうかという仕組みがなければ実行計画は進まない。